

まず大切なのが、あなたの住環境や家族構成、ライフスタイル、体力、経済力などを考えて、飼う目的に合ったペットを選ぶことです。

生き物を飼育するということは、毎日365日飼育するということです。

飼育とは食べ物や水を与えるだけではありません。ペットの習性・性格を理解し、ニーズに応じてあげることです。「犬のニーズとは、バランスのとれた食事、散歩などの適度な運動、安心して眠れる場所などに加えて、本能を満足させる遊び、社会的刺激（飼い主や他の人・犬・猫との触れ合いなど）といったことです。」

「犬は生涯を通じてしつけが必要ですが、特に最初の三年間は充分時間をかけるよう心がけて下さい。幼い時期に時間をかければかけるほど、後々犬との生活を楽しめます。」「特に、早期に母犬や兄弟犬と離されてしまった子犬は、犬に対する社会性に欠けるだけでなく心身ともに不安定です。そのため体調を崩しやすいばかりか攻撃的であったり、神経質な犬に成長しやすいのです。」とも書かれています。

Sundman先生らの論文（SCIENTIFIC REPORTS、2019年）にも、「飼い主さんの神経症的傾向は、犬に悪い影響を与え、飼い主さんの協調性（誠実性）や外向性（寛容性）は、犬に良い影響を与える」と報告しています。簡単に言うと、飼い主さんが明るく、いつもニコニコと笑顔で接してくれる方であれば、動物も明るく優しい性格になりやすく、飼い主さんが神経質気味な方だと、動物も神経質になってしまいがちです。児童精神科医のドナルド・ウィニコット先生は、「最良の母親とは、まあまあの母親である」と言っています。

また、犬猫の寿命は平均13~15歳。人間の寿命と比べると短く感じますが、動物の1年は、人間の4~7歳分に相当すると考えられています。いずれにしろ、10年以上一緒に暮らしていく訳ですから、人間の体力（年齢、病気）も重要ですし、経済力も大事です。動物を飼育する為には、車1台分の費用が生涯必要になると言っておられた大学の先生がいます。

しかし、もう既に飼育を開始している方がほとんどでしょう。そのような方は、上記のことがなおさら重要になってきます。特に「しつけ、トレーニング」は食事の前が効果的です。まずは、基本の「お座り」「待て」などから。最初は少しでもできたら、頭を撫でるなど褒めてあげましょう。猫も近くに寄ってきたら、軽く頭を撫でてあげましょう。嫌がらないようだったら、今度は、顔や口・鼻、できれば足先なども触れるようになりましょう。次は、口を開けてカリカリフードを1粒（図2:犬も猫もほとんど同じです。）

また、キャリーバックやケージの中でフードを少し与え、「安心できる場所」というイメージをつけましょう。災害時や外出時に必要です。決して無理強いせず、少しずつ繰り返し実施しましょう。人間もそうですが、決して1回や2回で覚えることはできません。しつけやトレーニング法の詳細は、専門書を参考にして下さい。「しつけ教室」などに参加する事も良い方法です。但し、「犬たちをおくる日」（金の星社、2009年）の著者、今西乃子さんが書いているように“「しつけ教室」とは、「犬のしつけ」ではなく、実は「飼い主さんのしつけ」教室のこと。ペットに関して、がんばり過ぎないように、疲れないように、嫌にならないように。これ、犬を幸せにする基本。”

